

\ 学ぶ / \ 備える / いばらきの地震

ご存知ですか？

自然災害・事故などの
30年以内の発生確率

茨城県沖の地震
(M7.0~7.5程度の地震)

80%程度

水戸で震度6弱
以上の揺れ

81%以上

大雨で罹災

0.3%

台風で罹災

0.33%

交通事故で負傷

15%

火災で罹災

1.1%

航空機事故で死亡

0.0000002%

※地震調査研究推進本部ホームページより作成

地震は避けることができない自然災害です。
だからこそ地震について正しく学び、「身近な危険」
として自分の身は自分で守る心構えが必要です。

茨城県地震保険・共済加入促進協議会

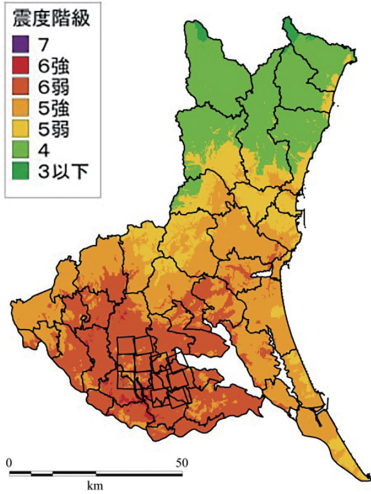
茨城県公認Vtuber
茨ひより



今後県内で被害が想定される主な地震

1 茨城県南部の地震(茨城県南部)

この地震は、国内閣府)が設定した首都直下のマグニチュード(M)7クラスの地震のうち、フィリピン海プレートと北米プレートの境界に想定した地震です。県南地域への影響が大きい『茨城県南部』に震源域を設定しています。



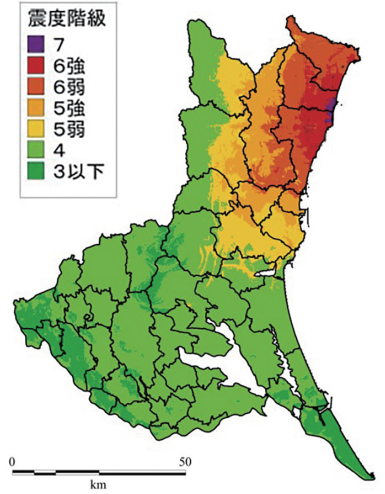
地震規模 Mw7.3

地震の特徴 震度6弱以上の揺れは県西地域の東側と県南地域となります。

被害の特徴 建物の全壊や焼失が県南や県西に広く及ぶ地震です。冬の18時に発生した場合の火災被害が非常に大きいことも特徴です。

2 F1断層、北方陸域の断層、塩ノ平地震断層の連動による地震(F1断層)

この地震は、原子力規制委員会の審査会合資料で設定された茨城県北部の断層に関する検討をもとに想定した地震です。被害が最大になるよう、断層が連動した場合の揺れを考慮しました。県内に活断層は発見されていませんが、発生すれば大きな被害をもたらす事態に備えるため、県北沿岸部への影響が大きい地震を想定しています。



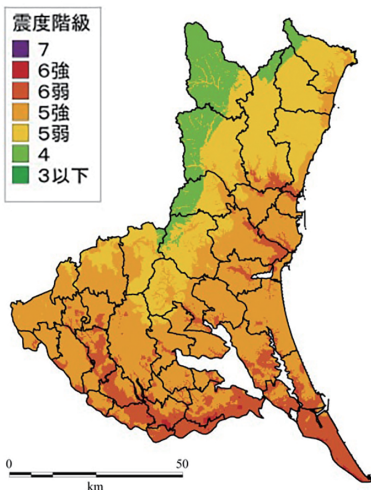
地震規模 Mw7.1

地震の特徴 日立市や高萩市、北茨城市で震度7となる地域もある強い地震です。

被害の特徴 被害は県北の沿岸部に集中していますが、今後県内で被害が想定される主な地震の中で揺れによる全壊・焼失棟数や死傷者数が最も多い地震です。

3 茨城県沖から房総半島沖にかけての地震(茨城県沖～房総半島沖)

茨城県で想定される最大クラスの津波(L2津波)の検討において対象となった海溝型の地震です。東北地方太平洋沖地震の震源域の南に位置する茨城県沖から房総半島沖にかけての領域を震源域としています。



地震規模 Mw8.4

地震の特徴 震度5弱以上の揺れがほぼ全県に及んでいます。なかでも河川沿いや県南の地盤の弱い地域では、震度6弱や6強の揺れが想定されます。

被害の特徴 沿岸部には津波による建物被害が発生し、内陸でも河川沿いや地盤の弱い地域で揺れや液状化による建物被害が多く発生すると想定されます。

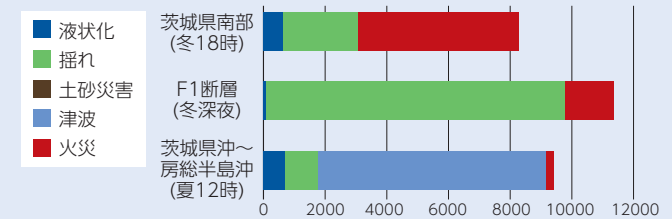
揺れ、土砂災害、火災、津波 — 建物被害 要因はさまざま

地震が起こると、揺れや液状化、土砂災害、火災などさまざまな要因によって、建物の被害が発生します。沿岸部では津波による被害も発生します。

下のグラフは3つの地震による被害量です。地震によっては火災による焼失や、津波による被害が揺れによる被害を上回ります。

東日本大震災では大丈夫だったと安心せずに地震対策を進めましょう。

地震別の全壊建物数(棟)



※土砂災害による被害建物数はわずかと想定されています。

揺れによる建物被害



(常陸太田市・東日本大震災)

津波による浸水被害



(大洗町・東日本大震災)

※地域ごとの被害の分布は、県ホームページをご確認ください。

防災の基本は「自助」です

大規模な災害時、「公助」だけに頼りすぎるのは危険です。自分と家族の命を守るため、自分でやれることはやってみる。「自助」を高めることが防災の基本です。そのためには、日頃からの備えが必要です。

備え1 避難について確認

家族で話し合みましょう。

- 非常用品の備蓄
- 緊急避難場所、避難所、道順の確認
- 家族との連絡方法



● 災害用伝言ダイヤル

録音方法	再生方法
1 7 1	1 7 1
ガイダンスが流れます	ガイダンスが流れます
録音は 1	再生は 2
被災地の電話番号を市外局番から入力	
1 伝言を録音	1 再生
9 終了	8 もう1度 9 別の伝言/終了

【注意】登録できる電話番号(被災地電話番号)
災害により電話がつながりにくくなっている地域の電話番号および携帯番号・PHS・IP電話の電話番号。なお、電話番号は市外局番から入力していただく必要があります。

● 災害用伝言板(携帯)

各社の災害用伝言板サイトアドレス

NTTドコモ

au

ソフトバンク



● インターネット(Web171)

災害発生時の「インターネットを利用した伝言板」サービス。インターネットで文章メッセージを登録・通知/確認できます。くわしくは、URL(NTT東日本) <https://www.ntt-east.co.jp/saigai/web171/>

<https://www.web171.jp>

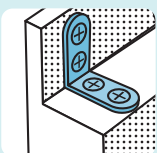
体験サービス提供期間

- 毎月「1日」「15日」
- 防災週間(8月30日～9月5日)
- 防災とボランティア週間(1月15日～1月21日)

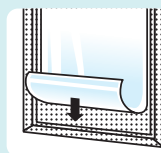
備え2 家の中の安全対策

自宅の耐震が心配な方は耐震診断を受けましょう。

- タンス・食器棚はL字金具や支え棒、照明器具は鎖と金具で固定し転倒・落下を防ぐ。



- ガラスには飛散防止フィルムを貼る。



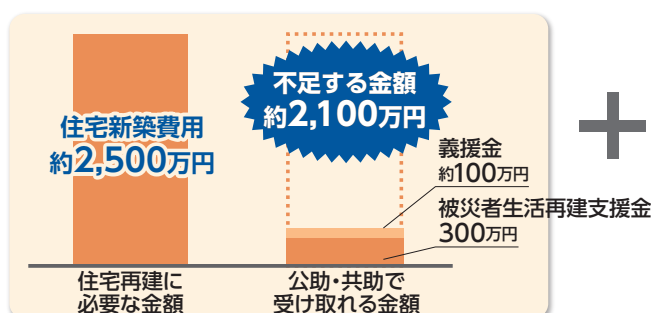
- 出入口や通路には物を置かない。

備え3 地震保険・共済への加入

経済的な備えが充分かを確認しましょう。

地震保険・共済は、被災後の当面の生活を支え、将来の生活に向かって最初の一步を踏み出すために大切な役割を果たします。

東日本大震災で全壊被害に遭った住宅の新築費用は平均して約2,500万円で、それに対して公的支援として受給できるのは、善意による義援金をあわせても約400万円にとどまりました。



これだけではなく、

- 家財
 - 引っ越し費用
- など、住宅・生活の再建には他にもお金がかかります。

※数字は東日本大震災の一例です。

- 「半壊」世帯には、災害救助法に基づき、57.4万円を限度として市町村が応急修理を行います。
- 災害復興住宅融資制度による低利融資は、「一部損壊」でも受け取れます。

地震への備えは万全ですか？

当てはまる個数

/28

チェックして
みましょう！



建物の耐震化

- 私の家は昭和56年6月以降に建てられた家です。
- 耐震診断を受けました。
- 耐震補強工事を実施しました。
- 家の手入れ(老朽化対策)はきちんと実施しています。
- 寝室や居間など長時間過ごす場所の補強をしています。

家具等の固定やブロック塀の補強

- 正しい方法で家具や家電の固定をしています。
- 食器棚などのガラスに飛散防止フィルムを貼っています。
- ブロック塀の補強や除去、生け垣・フェンスへの変更をしています。

火災対策

- 壁やカーテン、カーペットなどを燃えにくい素材のものにしています。
- 家に消火器を置いています。あるいは風呂の水を貯め置きしています。
- 置いてある消火器の使い方を知っています。訓練等で使ったことがあります。
- 感震ブレーカー(大きな揺れを感じると自動で電気のブレーカーを遮断する装置)を付けています。

土砂災害

- 近くにある危険な急傾斜や土石流の恐れのある渓流の場所を知っています。
- 土砂崩れが発生して道がふさがれても迂回できる道を知っています。

避難

- 家族や親戚といざという時の連絡方法や避難場所を決めています。
- 避難所がどこか、そこまで歩いてどのくらいかかるか知っています。
- どの道を通って避難するか、その途中で危ない箇所があるか知っています。
- 冬季や夜間に地震が発生しても、避難の際の寒さや暗さ対策は万全です。
- 家に3日以上以上の食料や飲み水があります。(畑の作物や井戸水なども含む)
- 自分や家族に必要な薬やオムツなども備蓄しています。
- 家族の治療中の病名(高血圧、糖尿病など)やアレルギーの有無、内服薬に関するメモをすぐ取り出せる所に用意しています。
- 家族に体の不自由な人がいますが、避難を助ける方法を定めています。

防災訓練・啓発

- 消火訓練(防災訓練)に参加しています。
- 応急手当の方法をよく知っています。
- 防災士の講習や公民館などの防災に関する勉強会に定期的に参加しています。
- 災害により家屋等が被災した際に「罹災証明書」の申請を行うことや、市町村等が生活再建を支援する様々な取り組みを行っていることを知っています。

経済的備え

- 万が一、自宅が被害を受けた場合、生活再建に必要な費用を知っています。
- 保険・共済の補償対象・内容を確認して、自宅のリスクに見合った保険・共済を選んでいきます。